

■とちぎの家庭教育支援についてもっと知りたい方へ

- ・ 家庭は、乳幼児期の親と子のきずなの形成に始まる家族とのふれあいを通じ、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成する教育力を持つもので、すべての教育の出発点です。
- ・ とちぎでは、子どもの心身の成長に重要な役割を果たす家庭教育を支援するため、体制の充実や啓発活動、学習機会の提供などを行っています。家庭や地域の教育力を高めるため、地域社会の中で家庭教育について自主的・主体的に学習や相談活動を行い、地域の人々とともに考え、支援・援助する「家庭教育オピニオンリーダー」によるきめ細かな家庭教育支援活動が行われています。また、親自身の学びに加え、親同士が交流し支え合える関係づくりなどを応援する「親学習プログラム指導者」が県内市町で活躍しています。

とちぎの家庭教育支援事業

- 1 家庭教育・子育て支援関係者広域ネットワーク
- 2 親学習プログラム普及・定着事業
- 3 とちぎの高校生「じぶん未来学」推進事業
- 4 家庭教育相談事業
- 5 家庭教育オピニオンリーダーの養成
- 6 家庭・地域いじめ対策教育支援事業
- 7 地域課題解決型学習推進事業



親学習プログラムについて

【親学習プログラム・親学習プログラムアレンジ版】

家庭の教育力の向上を図るためには、親が親としての役割を学ぶことが重要であり、行政が積極的に支援することが求められています。市町などが実施する「親学習（子育てに必要な知識やスキルを親が学ぶ）」普及・定着の取組を「親学習プログラム（平成17年度策定）」及び「親学習プログラムアレンジ版（平成20年度策定）」の活用を促進して支援しています。



【思春期版家庭教育支援プログラム促進事業】

思春期の子どもは心身ともに不安定になりやすく、親の子どもへの関わり方や基本的生活習慣の確立等、家庭教育支援の充実を図ることは極めて重要です。

そこで、保護者にとって身近な中学校や高等学校、特別支援学校をステージに、学校行事やPTA活動等で気軽に活用できる「思春期版家庭教育支援プログラム（平成23年度策定）」の周知を図っています。また、プログラムを効果的に活用できる指導者の養成を行い、県内全域での普及・啓発に努めています。

【指導者の養成】

家庭の教育力の向上を図るために、親同士が交流しながら子育てに必要な知識やスキル等を学ぶ「家庭教育支援プログラム」を活用できる指導者を養成しています。